



加古川市立山手中学校
学校だより
令和8年2月17日（不定期発行）

自主創造
親和協調
感恩奉仕



姫路城と加古川

2月27日（金）、2年生は姫路校外学習を行います。事前に姫路の歴史や文化、戦争にまつわることも含めてしっかり学習したと思いますので、現地での班活動も含め、意義ある行事にしてください。

ちなみに、姫路城は、その一番初めの姿、小さな砦を姫路山に築いたのは、鎌倉時代末期から南北朝時代の播磨の英雄、赤松貞範という人物です。この赤松一族は、古くから加古川の地も治め、**神野城**や**西条城**などを築きました。戦国時代末期、織田信長の命を受けた羽柴（豊臣）秀吉が播磨へ進攻した際、これらの城は攻撃の対象となり、落城されたそうです。（→大河ドラマ『豊臣兄弟』に描かれるでしょうか??）

姫路城はこの時初めて秀吉によって本格的な3層の天守が築かれ、次に1600年、関ヶ原の戦いの功績により手にした徳川家康の娘婿・池田輝政が大規模な築城をおこない、現在のような5重6階の大天守と連結式天守群が完成しています。戦国時代に信長や秀吉、家康など名だたる武家たちが播磨地区、そして**山手中学校の校区にも大きく関係していた**という史実は、とても興味深いですね。

姫路や加古川は海も山も大きな河川もあって、縦にも横にも、交通の非常に重要な場所とみなされていました。太平洋戦争の時代には、姫路は陸軍第10師団（非常に強固な精鋭部隊）が置かれた「軍都」であり、加古川は日本最大級の陸軍飛行場（=尾上飛行場）が「空の拠点」として存在し、ニッケなどの軍需工場も集中していたので、アメリカの攻撃の対象となり、大きな空襲を受けて大打撃を受けたことは、容易に想像ができるでしょう。

姫路大空襲の翌日、焼け野原の中、奇跡的に生き残ったお城の姿を見た人たちは、絶望の中から「もう一度この街を立て直そう」と勇気をもらったといえます。そんな多くの犠牲を経て、姫路城は今、「**世界文化遺産**（1993年、日本で初めての登録）」として、世界中から人々が集まる場所となっています。

「校外学習だから」ではなく、人の命を奪う“争い”を二度と起こさないよう、日々学び、考え、**平和への願い**を繋いでください。

加古川教育フォーラム

2月21日（土）13時より、加古川市民会館にて『加古川教育フォーラム』が開催されます。第1部では、市内の全生徒会が「**心の絆プロジェクト**」の取組発表をしてくれます。第2部では、木下晴弘氏による講演がありますので、お時間あればぜひご参加下さい！

（参加無料、詳細はQRコードから→）



ふれあい作品展

加古川総合福祉会館にて「ふれあい作品展」が開催され、本校生徒の作品も展示されました。力作ぞろいでどれもとても見応えがありました！



